



新冷戦の訪れか 米中の思惑と展望は

なぜ米国は、中国に対し強硬姿勢を貫くのか。今後の米中関係は台湾や南シナ海などをめぐって軍事的緊張が高まっていくのか——。本書は米ソ冷戦との違いを強調し束の間の安心感を得るよりも、米中の世界観の違いを認識し、冷戦の教訓を活かすべきだと主張する。日本や国際社会が果たせる役割とは。一九七〇年代の国交正常化から現在に至る米中関係を分析し、現在そして将来の国際社会の行方を占う上で、試金石となる一冊。

米中対立

アメリカの戦略転換と分断される世界
佐橋亮・著
中公新書 / 1034円

日本外交の安保理改革は、南北格差の不満から「先進国中心の秩序」の変革を目指す南側の要求に、「政治大国」となるべく常任理事国入りを狙った日独が便乗する形で一九九〇年代に始まった。だが近年、常任理事国は自国第一主義を強め、改革は足踏みを続けている。従来と異なる「二段階改革論」を提案する本書は、米中対立やロシアに揺れる多国籍主義の危機に際して国連での豊富な経験を持つ実務家らが著した、国連論の体系書である。

多国籍主義の危機 実務家が新たな改革案



国連安保理改革を考える

正統性、実効性、代表性からの新たな視座
竹内俊隆・神余隆博・編著
東信堂 / 3850円

いかにして核兵器とともに生きるのか——。一九六〇年代末〜七〇年代に一応の答えが見出され、本書が「核の一九六八年体制」と呼ぶ核秩序が成立、現在に至る。とりわけ冷戦の最前線に位置した西ドイツに注目し、核秩序成立の過程をたどる本書は、蹂躪される恐怖に怯えた西ドイツが、なぜ核兵器の保有を放棄し、米ソ中心の核秩序を受容したのかを分析する。過去の選択を知ることが、将来の核兵器のあり方を考える鍵となるはずだ。



核の一九六八年体制と西ドイツ

岩間陽子・著
有斐閣 / 4400円

生きるか死ぬかの問題で 西独が下した決断は



コード・ガールズ

日独の暗号を解き明かした女性たち
ライザ・マンディ・著
小野木明恵・訳
みすず書房 / 3960円

女性のキャリア進出 そのきっかけは暗号解読

日本軍の暗号を解読したことは、米國が太平洋戦争を制した要因の一つと言われる。特に日本の外交暗号「パープルの」解読成功は、米國を暗号解読後発國と見なしていた英國が認識を改め、両國の暗号解読協力の契機となった。実は、大戦中の米國で枢軸國の暗号解読に従事したのは、数学など高等教育を受けた一万人以上の女性だった。本書は、情報戦の一翼を担い、高キャリア就労の道を切り開いた女性たちに光を当てる異色の力作。

ネルソン・マンデラ

分断を超える現実主義者
堀内隆行・著
岩波新書 / 880円



二七年間に及ぶ投獄生活の末、南アフリカでアパルトヘイト撤廃、黒人初の大統領就任を果たした「聖人」マンデラ。だが、実のところ彼は暴力路線を厭わなかったし、運動家の中で突出した苦難を経験したわけではない。ではなぜ、彼は人種間「和解」のシンボルとなり得たのか。複雑な民族構成を抱える南アフリカ社会、変動し続ける冷戦構造を背景に、弾圧や他勢力との競争を生き抜いた老獪な「政治家」マンデラの生涯を描く。

時代が生み出した 老獪な「聖人」の実像

わたしたちは、海の現実をどこまで知っているだろう。多くの人が抱く海のイメージと、本書が描く現実とは、大きなギャップがあるはずだ。暴力や殺人、奴隷のような労働を強いられる人々……陸なら「大事件」になることが、海では「日常」の一部なのである。四〇カ月にわたって五つの大洋を旅した著者が、海に生きる人々の生活を克明に描く。わたしたちの食卓に並ぶ海産物は、彼らが死ぬような思いで獲ったものかもしれない。

アウトロー・オーシャン

海の「無法地帯」をゆく(上・下)
イアン・アービーナ・著
黒木章人・訳
白水社 / 各 2640円



陸のルールが通用しない 「無法地帯」の現実とは